

# 自主防災連絡協議会ニュース

平成 26 年 1 月 第 5 号

発災 2 週間後の避難所（多賀城小学校）：  
津波とライフライン停止で 1 万 2 千人以上が避難



仙台港や市街地に津波で流された車やがれきが散乱

## 東日本大震災からもうすぐ三年

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災。多くの市民から物資やボランティアなどの応援が行われた大震災から三年を迎えるにあたり、被災直後の避難所運営から現在に至るまで支援を続ける宮城県多賀城市の今をレポートします。

建設中の震災復興住宅（4~6 階建 160 戸、津波避難階段、太陽光パネル、高齢者相談所や保育所を併設）



防災倉庫（災害備蓄は避難所の小学校に備蓄することとしました）

津波避難ビル

**【三年振りの多賀城市】**11月21日 JR 多賀城駅。駅周辺は連続立体交差化され、津波発生時に遮断機が降りっぱなしだった踏切はなくなり、道路や下水道の復旧工事が進み、防潮堤や震災復興住宅建設に着手するなど復旧から復興に向けての槌音を感じました。また、市内のあちこちに津波の浸水深が表示され、避難所だった小学校には防災倉庫、津波避難ビルの看板が沿岸部の至るところに建てられるなど、安全対策も進められていました。



ここまで津波がきました



**【今も残る爪痕】**一方で、津波被害が大きかった仙台港周辺では、被災した家屋や由緒ある神社が手つかずのまま放置され、工場撤退やそれに伴う離職など多くの問題が残されているとのことでした。案内した市職員は「道路や下水道などのハード整備は国からの補助金で復旧できるが、亡くなった人は戻らない。家族を失った人の中には今も大きな爪痕が残っている。今も、あの忌まわしい出来事が夢であって欲しいと願っている。」と話していました。

**【未来に向けて】**三年振りの訪問で、復興までの道のりは長く険しいことを感じ、防災の一番は死なないことだと痛感しました。今後は、支援で得た経験を防災・減災の取組みに繋げて行きます。また、命の大切さを一番に考えていきたいと思えます。多賀城市では、「3 年でもともにもどす（復旧）」「10 年で震災前以上に元気になる（再生・発展）」を目標に取り組んでおり、「全国からいただいた応援・支援に対し、復興することで応えたい」とされています。多くの応援は、復興の力になっています。

JR 多賀城駅（連続立体交差事業）



国道 45 号横断歩道橋より塩釜方面を望む（津波で浸水しこの歩道橋にも避難した）



津波で浸水したビルより仙台港を望む

仙台港では朝早くから輸出用自動車を停泊している船に搬入する作業をしていました。



（取材：危機管理室 久郷）

## 先進事例を紹介します！

### 子供と高齢者だけで行う訓練（鴨島町防災会）

6月23日（日）、鴨島町防災会では、昼間に子供と高齢者のみの訓練を行いました。災害はいつ発生するかわかりません。そして、発生した時に若い人が近くにいるとは限りません。子供一人で大人を運ぶことはできませんが、リヤカーを使いみんなで力を合わせれば運ぶことができました。子供たちは助けられる側だけでなく、助ける側になることができるということを証明した訓練となりました。



### 水害に対する土嚢の予防的設置（大坪町二丁目防災会）

10月27日（日）、大坪町二丁目防災会では、大雨の際に水があふれそうになる危険がある箇所に予防的に土嚢を設置する訓練を行いました。近年は本市においても大雨による被害が増加しています。災害が発生する前に防ぐ、これこそが防災の基本だと感じました。



### 避難旗を使用した安否確認（湊町東部防災会）

6月23日（日）、湊町東部防災会では、「避難旗」を使用した訓練を行いました。「避難旗」とは災害時に自宅の玄関等に掲げ、避難が完了していることを知らせるための旗です。津波のように短時間で襲ってくる災害が発生したときはいかに短時間で安否確認をし、避難させるかがポイントとなります。今回の訓練で使用した「避難旗」を使えば迅速かつ正確に避難をさせることができるようになります。



### 連絡協議会設立後初の防災訓練（二上地区自主防災組織連絡協議会）

二上地区では平成25年7月に自主防災組織連絡協議会を設立し、10月13日（日）に第一回防災訓練が実施されました。各自主防災会で一時避難場所に避難したのち、万葉小学校グラウンドへ避難誘導して、消防団による放水見学や初期消火、煙中体験、ロープ結索などを行いました。初の地区単位の訓練でしたがみなさん積極的に参加し、素晴らしい訓練となりました。



### 防災すごろくを利用した訓練（福田六家防災会）

12月22日（日）、福田六家防災会の会長は今年度、防災士の資格を取得し、自主防災組織の活動において先進的な訓練をしたいということで、図上訓練と防災すごろくを行いました。防災すごろくはサイコロを振り、防災に関するクイズに正解できたらその数だけ進めるというもので子供から大人まで楽しみながら防災について学ぶことができた訓練となりました。



## 在留外国人による炊き出し (福田地区自主防災組織連絡協議会)

福田地区では福田公民館に設置した福田地区災害対策本部において、地区内の避難状況・安否確認・被災状況などを把握や介護支援が必要な方の福祉避難所（「鳳鳴苑」と「きぼう」）への搬送を行いました。

この他、国際交流の一環として「ブラジル」「ボリビア」の在留市民がお国自慢の料理で炊き出しをふるまいました。普段あまり触れあう機会の少ない外国人にも防災と料理を通して交流を促す試みとして行われました。防災訓練を通して人と人との繋がりを再確認することができた、素晴らしい訓練となりました。

## トピックス

### 1 コミュニティ助成事業

「コミュニティ助成事業」は、(財)自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として実施するものであり、本市では校下(地区)自主防災組織連絡協議会を対象としており、コミュニティ活動の充実・強化を図り、これらの活動に対して助成を行っています。

平成 25 年度は能町校下自主防災連絡協議会がコミュニティ助成を受け、防災資機材を購入しました。今後は購入した資機材を利用してより充実した訓練を行っていく予定になっています。



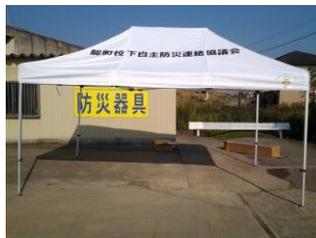
ボリビア料理  
エンパナーダ

ブラジル料理  
トマトチキンスープ

### 2 災害時における自主防災組織の活動

11月28日(木)17時30分頃に中田地区で住宅4棟を焼き、女性がやけどを負い病院に運ばれるという火災が発生しました。火災の知らせを受けた中田東町自主防災会はいち早く現場に駆けつけ、消火活動に当たる消防への後方支援、赤十字奉仕団への炊き出し依頼、また火災により住宅が焼けた方へ東町公民館の一室を宿泊場所として提供するなど自主防災会としての機能、役割を見事に果たした事例と言えるでしょう。

中田東町自主防災会がこのように迅速かつ的確な行動をとれたのは平常から情報伝達訓練等を行っている成果です。



火災の被害にあわれた方に寝る場所を確保しました。



中田コミュニティセンター内を開放し炊き出しを行いました！

# お知らせ

## 1 高岡市防災情報メール

高岡市では、気象情報をはじめ防災に関する情報を配信しています。必要な情報を選択していただき皆さんのパソコンや携帯電話へメールをお届けします。

### (1) 配信情報の一覧

配信種別	配信情報（複数選択可）
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷等 16種類
警報	大雨、洪水、暴風、大雪、波浪、高潮等 7種類
土砂災害警戒情報	富山県と気象庁が共同で発表する防災情報
地震情報	震度1以上、震度2以上、震度3以上、震度4以上
津波情報	大津波警報、津波警報、津波注意報
高岡市からの防災情報	台風接近による注意喚起、クマ目撃情報、避難勧告等

### (2) 登録について

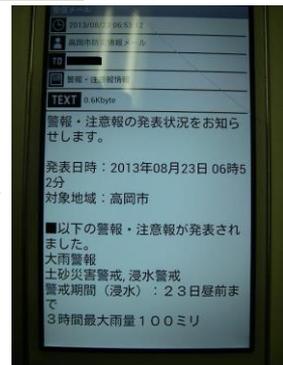
◇携帯の場合（QRコード）

◇パソコンの場合（URL）

<http://service.sugumail.com/takaoka/member/>



警報や注意報、その他の災害情報が出た場合このようなメールが届き注意喚起を促します。



### (3) 利用上の注意

◇登録は無料ですが、メールの送受信に係る通信料はご登録者の負担になります。

◇届いたメールに返信はできません。

◇一定回数不達になったアドレスは強制的に登録解除させていただく場合があります。

## 2 特別警報

気象庁は、平成25年8月30日（金）に「特別警報」の運用を開始しました。

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を発表して警戒を呼び掛けてきました。これに加え、今後は、この警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

自主防災連絡協議会ニュース編集部：高岡市総務部総務課危機管理室

電話：0766-20-1229 F A X：0766-20-1325

<http://www.city.takaoka.toyama.jp/bosai/bosai/sonaeru/chiiki/index.html>

地域の防災対策  
はこちら！